

# 平成26年度 京都厚生園事業計画

## 1. 基本方針

平成24年度、厚生労働省より「地域包括ケアシステム」が示され、高齢者が住み慣れた地域で生活し続けるための整備をめざし介護保険制度改正が行われた。これを受け平成25年度には京都府においても「京都市オレンジプラン」が宣言され、高齢者ケアにおける認知症対策を重点課題として、医療と介護のとぎれないケア環境の構築を掲げてスタートしたところである。

このような中、平成26年度当園は、地域における認知症の人と家族（介護者）の集いの場としてオレンジカフェ（認知症カフェ）と認知症デイサービスセンターを開所し、認知症の理解を進め、地域で安心して生活できる環境を整えるためのネットワークづくりを開始する。

また、経営を安定させ、各事業所・拠点施設がそれぞれの特性を活かし、役割を担えるよう全職員が次の「重点項目」と「行動目標」「行動ルール」に取り組む。

## 2. 重点項目

### ①経営状況の改善

- ・昨年度に引き続き、職員の意識改革と他事業所との差別化（強み）を図り、選択される施設づくりを推進し、利用者確保（実績目標の達成）を目指す。
- ・27年度の介護保険制度改正を視野に入れ、根拠に基づいた事業運営やサービス提供を行えるようにする。
- ・新規事業の運営を早期に軌道に載せ、整備費の回収が短期間で行えるように努める。

### ②中長期計画の策定

- ・2025年を到達目標とした地域包括ケア体制を目指す中で、制度改正、地域のニーズ、人材確保を視野に入れた計画の策定を行う。
- ・各拠点の地域貢献の在り方に関して見直しを行う。
- ・中長期計画の策定に向けた提案を行わせる。

### ③人材確保と育成

- ・継続課題である人材確保について、就労者の多様なニーズ（多様な雇用形態）に対応できるよう指導的職員の育成を行う。
- ・中途退職者を減らすための対応策を検討し、職員の確保につなげていく。
- ・職員の個性を活かした個人の達成目標を明確にし、職員の成長を後方支援していきけるよう、人事考課制度及び人事企画室、各拠点間の連携とシステムづくりを行う。
- ・各職員の目標設定や研修計画が立てやすくなるよう、キャリアパスの見える化を行う。
- ・各拠点間の評価を行い、事業運営及び人材の活用を活発化させる。

### ④認知症ケアの推進（見直し）

- ・オレンジカフェをオール京都厚生園（職員全員）体制で行う。
- ・地域交流サロンを中心に、認知症の理解を深めてもらうための活動を検討、実践する。
- ・各事業における認知症ケアの在り方及び各事業の棲み分けについて検討する。

### ⑤災害対策の推進

- ・地震・火災対策の仕上げとその他の災害対策を実施し、これまでの過去2年間の取り組みと合わせ、一定の成果を示す年度とする。
- ・災害時に福祉避難所として、また各事業所として、どのような役割を果たすべきかを認識し、全職員が災害時に行動できる行動マニュアルを完成させる。

## 平成 26 年度 行動目標

- 利用者、家族、スタッフ、関係機関、地域の関係性を強める
- オール京都厚生園で課題に向き合う
- 「任せる」「任せられる」チームづくり
- 「一人の力量に頼らない」「一人で抱え込まない」チームづくり
- 「根拠」を考え、調べ、「根拠」を説明できるようになる

## 平成 26 年度 職員全員の行動ルール

「あいさつ」ができ、「ありがとう」「ごめんなさい」を言うこと

あいさつの「あ」…あかるく

あいさつの「い」…いつでも

あいさつの「さ」…相手よりさきに

あいさつの「つ」…挨拶一言で終わらず、少し話をつづける